

いのちの海と空と大地



原発のない世界を求めて ニュースレター

発行： 日本聖公会「正義と平和委員会」原発問題プロジェクト

はじめに

2011. 3.11 の東日本大震災と、引続き発生した東電福島第一原子力発電所の爆発事故は、その地域に住む人たちだけでなく、日本人全体の問題として大きな影響を与えました。そして、7年目の今もまだ多くの被災者の方々が困難の中に生活しておられます。日本聖公会はこれまで、特にこのような甚大な放射能災害をもたらした原発に依存する社会に警告を発し、また、被災された方々に各種の支援活動を行ってきました。そして2016年3月に、これまで実施してきた「いっしょに歩こうプロジェクトパートⅡ」の形を少し変え、新たに「原発問題プロジェクト」として再スタート致しました。

この「いのちと海と空と大地」は原発のない世界の実現に向けて、原発に関連する色々な事柄を分かりやすくお伝えするためのニュースレターです。皆様からのご意見も頂きつつ取り組んで参ります。

1. 小児甲状腺がん

核物質からの放射能は、皮肉な事に、次の世代の担い手である若い人たちや小児、女性に強い影響をもたらすのです。それは、若い人たちや小児の細胞は活発に分裂し、成長する力が強い事に関係があります。

細胞には染色体という遺伝情報が含まれています。この染色体は、放射線によって一部切断されることがありますが、修復能力があり、元の状態に回復しようとします。しかし、赤ちゃんや小児は代謝が活発で成長力が高く、細胞分裂も活発です。その為、場合により、まだ染色体が修復されていないうちに細胞が分裂してしまう事があり、その細胞はその後、異常なままで分裂を繰り返し、正常な体に戻らないという事が起るのです。まだお母さんの胎内で被曝した場合は、奇形児となって生まれることもあるのです。福島県は原発事故の後、当時18歳未満であった38万人の甲状腺検査を行いました。その後これまで、3回のスクリーニング検査を行い、185人が甲状腺がんおよびその疑いがあるとい

福島県小児甲状腺がん検査まとめ(2016年12月31日現在)

甲状腺癌及び疑い					
185人					
先行検査			本格検査		
116人			69人		
手術前	手術後		手術前	手術後	
14人	102人		25人	44人	
	乳頭癌	低分化癌		乳頭癌	低分化癌
	100人	1人		43人	0人
	その他の癌	良性結節		その他の癌	良性結節
	0人	1人	1人	0人	

作成：福島原発事故の真実と放射能健康被害★
<http://www.sting-wl.com/fukushima-children12.html>

う結果を得ています。一般に小児甲状腺がんは100万人に1~2人とされていますが、この結果は、その数百倍に相当します。明らかに通常の発生率とは違いますが、福島県は「必ずしも福島原発事故の影響であるとは考えにくい」と言っています。

2017年4月以降、これまで避難解除準備区域の32,000人の方々が住んでいた地域が避難解除されました。除染作業により、住宅地の多くは放射能レベルは低下しました。しかし、被曝の安全基準が1 mSv/年（年間被曝線量が1ミリシーベルト）から20 mSv/年に緩和されました。これは従来放射線業務従事者という特殊な仕事をする人に適用されていた基準でもあることから、戻っても大丈夫だろうかという不安があります。もっと根本的な解決策が望まれます。さらに、福島県は県外の自主避難者の住宅支援も打ち切りとしました。帰還政策を急ぎ、安全を強調する政策が進行しています。新たな安全神話が作られつつあるような不安を覚えます。生活者の目線で本質的な安全を求めてゆく必要があります。

2. 原発と原爆の違い

原発の原子炉は原爆（原子爆弾）と同じです。原爆はウランやプルトニウムを出来るだけ早く核分裂の連鎖反応を起こさせますが、原発の原子炉は、中性子が原子核に衝突する速度を減速し、連鎖反応を制御しつつ熱エネルギーの発生割合を高めたものです。もともと原子炉は、原爆の材料となるプルトニウムを得るために開発されたものです。大戦中、日本も原爆の開発を進めていましたが失敗に終わり、開発に成功した米国は広島、長崎に原爆を投下しました。その後、米国のアイゼンハワー大統領が、1953年、国連総会において「核の平和利用」という演説を行ったことから原子炉の原発への利用が平和のためであるとされてきました。

もともとは原爆開発の道具であった原子炉は、核分裂の際に発生する膨大な熱エネルギーを持って余っていたのですが、それを発電所（蒸気原動機）の熱源として用いる事を思いついたのです。以来、発電所に用いられる原子炉は「平和利用」という事になりました。しかし、その本質は原爆に用いられるプルトニウムが生産される装置であることに変わりはありません。日本では、これまでの運転により、48トンのプルトニウムを保有していますが、このうち38トンをフランスやイギリスに保管してもらっています。日本は、世界で唯一の原爆を投下された被爆国ですが、戦後の米国の東アジア政策や日米安保条約のもと、核兵器は持てませんが原発の開発が可能となりました。そして、政治的には「安全保障の観点から、核兵器を持つことの技術的ポテンシャルを保持する」体制を維持してきました。しかし、2011年3月11日の東北地方を襲った巨大地震とそれによって発生した大津波は、福島第1原子力発電所の爆発事故という途方もない放射能災害を引き起こしました。まさに、安全と信じさせられていた原発が、危険この上もないものであることを知るに至ったのです。6年経過した今でも、約8万人の方々が避難生活を余儀なくされています。原発事故の収束の目途もたない状態が続いています。一旦運転されると、ウラン燃料の核分裂を完全に止めることは出来ないため、発電所としての運転を止めても長期間にわたって放射能を発生し続けるのです。原発を運転しなくても電気が不足することはないと分かった今、新たな原発の建設をせず、再稼働もしない事が最善です。